

# 土に還る茶室

○地域のくらし—豊きを追求するために・・・

私たちは、その土地・地域・風土の中で暮らしを豊かにすることができる提案をする。それは、豊かに生き残りを許すのでなく、地域に活力をもたらす、既存の地域コミュニティの力を活用して、ひいては住民を生き残すことに繋がる多目的としたプロジェクトである。そして、地域社会を介した建築づくりに地域活性が関わるプログラムを実現する事とした。そして、好みに選ばれた私たちが、平成27年の暮に実施した提案とその活動を紹介する。

○実践の場 郡木県立子町城内地区について

郡木町立子町は、茂呂運動の中心人物一人。茂呂庄出が畠を築き、「飛の庭」を復活した緑子城で知られる地域である。園内地区は、緑子城を築いた城が立ち並ぶ境内面通り周辺の地域であり、緑子城の文化・風土・暮らしの中心として成長した。

○実践の機会 土祭(ヒジサイ)

土祭(ヒジサイ)とは、+緑子の風土、すなわちこの土地の自然と、自然に入がはたらかせて楽しめた緑やかな暮らしのことをなみ、それを引き継ぐ。この土地ならではの趣をもとに、現代で受け取るための軸。

○「結ぶ」をキーワードに・・・

土祭(ヒジサイ)における地域活性の核の復活を語して、地域と何かを結び付けていく。  
地域のくらしに欠かせない人やモノゴトを結び付けていく。

建築という行為の中で既存のコミュニティに活力をもたらす、新たなコミュニティを生み、結びつきを強化し、地域力を強化していく。

私たちは地域活性のための「土に還る茶室」の復元と建設を通して、それを実践したいと考えた。

○土祭 2015

「この土地で生きてること」は、一種のこと、囲うこと、めますこと、隔うこと、～のテーマのもと、風土に根ざした新しい想いを育てていくことを目指し、3年に1度(9月の月初から毎月の間)に開催される祭りとして第3回を迎えた。

そして、「文化の力で、地域を元気にする」という計画とともに生まれた土祭は、間に暮らす人が中心にいる祭として、より村民の手による祭りが実現されていた。

(写真及び参考資料: 土祭 2015 参照路線発表資料)

○構造・地盤の事前調査

構造設計は、緑子の文化を基準に算定。緑子の多様な文化の本質に該当するところを幾種類か複数候補候補にし、候補を絞り込むために、緑子の伝統的な工法等を参考して、緑子の文化等を再現していく。



地盤の特性から算出された算定



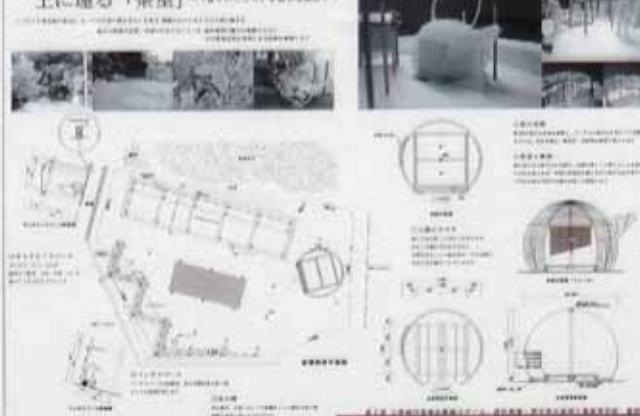
地盤の内より出土されたフィールドワーカー



地盤の理屈や伝統性を学ぶ

2015.9 土祭 城内地区企画

土に還る「茶室」〜「昔のこころ」を蘇る空間作り〜



○土地の力を活かすために・・・

地域の暮らしや文化、風土、田舎の内での想いを理解し、そのままの形で力を最大限に活かした提案をしたいと考えた。シンプルで洗練的でない構造を考へ、地頭の人・モノ・コトに積極的に関わってもらいたいと考えた。そして、地域の方たちの山水土建への尊敬や尊重の想いを大切にした提案を行った。



完成後のプロジェクト全景



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業



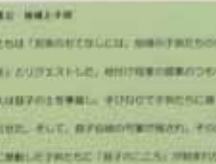
古道の内を洗浄して作業



竹日向葉屋の織子



地盤計画に沿っての基礎設置



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業



古道の内を洗浄して作業



竹日向葉屋の織子



地盤で洗った竹の利用



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



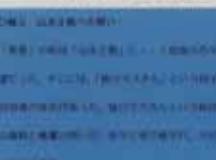
緑子のうさぎによる作業



古道の内を洗浄して作業



竹日向葉屋の織子



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業



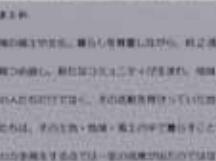
古道の内を洗浄して作業



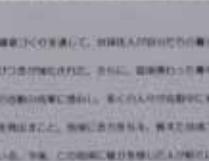
竹日向葉屋の織子



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



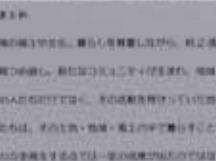
通行の際は和室で休憩



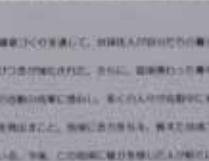
緑子のうさぎによる作業



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業



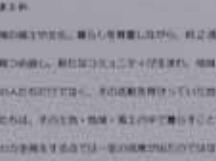
古道の内を洗浄して作業



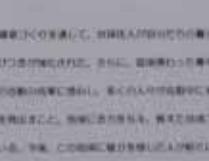
竹日向葉屋の織子



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



通行の際は和室で休憩



緑子のうさぎによる作業